



設立5周年にむけて

建設省河川局長 岩井國臣

今、世界は激動期を迎えています。東西冷戦の終焉、ソ連邦の崩壊、民族紛争の多発などに伴い世界は新たな秩序を求めて大きく動いている訳ではありますが、と同時に世界は地球環境問題、南北問題、経済摩擦などの問題に直面し、21世紀における新しい文明というものを模索し始めているようでもあります。我が国もその渦中にあることは言うまでもありません。まさに、今、私たちは、世界の歴史が急激な勢いで転換しているその真っ只中にいると言えます。

私たちは、このような激動の中で、将来への的確な展望を抱きつつ社会資本整備を推進して行かなければなりません。そして、我が国においては、急速な高齢化が進行しており、国力のある来る21世紀初頭までの間に公共投資を充実させ、社会資本整備の遅れた部分を取り戻すことが必要となっています。

これまで、河川行政は、その時代における国民のニーズに対応しつつ河川の整備を推進して参りました。終戦頻発した大水害に対応するため治水対策を重点的に進め、経済成長とともに水資源開発にも積極的に取り組んで参りました。公害問題が大きな社会問題となったところからは、河川環境の改善にも力を入れるようになってきております。そして、ご承知のように、現在は、「安全な社会基盤の形成」、「水と緑豊かな生活環境の創造」、「超過洪水・異常渇水等に備える危機管理施策の展開」を3つの柱として、第8次治水事

業5カ年計画を協力を推進しようとしているところであります。

我が国においては、社会経済状況の変化にともない、国民の価値観やニーズが極めて多様化しているとともに、経済大国にふさわしい豊かさを実感できる生活の実現が社会の様々な分野で強く要請されています。川づくりについては、治水、利水、環境のいずれの面においてもより質の高いものが要請されており、中でも、自然豊かな、ゆとりと潤いのある水辺環境の保全と創出ということが強く期待されています。

このような中、リバーフロント整備センターが昭和62年に発足し、以来5年間に亘って、地域と一体となった親しみと潤いのある水辺地域の創出や河川の自然環境の保全と創出などの課題について様々な調査研究を強力に行なうとともに、各種の啓発活動、国際協力等を幅広く推進しておられることは誠に喜ばしく、心強い限りであります。

現在では、リバーフロント整備センターは、水辺環境の保全と創出に関する専門的かつ総合的な技術と知識を保有するすばらしいシンクタンクに発展しており、全国の川づくりに関係する方々にとって欠かすことのできない存在となっております。これまでの並々ならぬご努力に敬意を表しますとともに、今後のなお一層の発展を祈念致しまして5周年の言葉と致します。